



愛光NEWS

2020年1月

2020（令和2）年2月17日発

（編集）愛光本部総務部

（TEL）043-484-6391

（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

暖冬で穏やかな新年を迎えられたと思っていた矢先、新型コロナウイルスによる肺炎が中国発で世界中に拡がり新たな懸案となっています。最初に報道されてから2ヶ月足らずの間に感染者数が瞬く間に広がっています。オリンピック・パラリンピックの開催は大丈夫でしょうか。目に見えないウイルスは脅威ですが、冷静さを失わず、基本的な風邪予防（手洗い・うがい・マスク着用）の徹底が必要とのこと。一方インフルエンザ流行の季節でもありますが、今のところ法人内でのインフルエンザの流行はありません。

□事業経過など（2020.1.1～）

月/日(曜)	記 事
1/1(水)	元旦
6(月)	仕事始め
7(火)	2020年度学童保育所申込受付（学童保育所～21）
8(水)	2020年度新卒採用試験（第5回）／サービス責任者会議
9(木)	内部統制委員会（10日）
10(金)	業務執行理事会／職員合同新年会
12(日)	「チバニアン」（千葉時代）国際地質科学連合承認
13(月)	成人の日
15(水)	内部統制委員会／介護マイスター研修／地域食堂ともいき（第10回）
15(水)	小学生書初め展西田佐倉市長来所(市長賞選定地域福祉センター)
16(木)	施設長会議
17(金)	予算ヒアリング
21(火)	高梨元常務理事講演（利用者家族に寄り添う支援とは）
22(水)	施設長会議
23(木)	2020年度新卒採用試験（第6回）／業務執行理事会
23(木)	業務執行理事会／メンティ交流会
25(土)	理事会／第三者委員相談会（ワークショップかぶらぎ）
26(日)	オレンジカフェ（はちす苑）
28(火)	リスクマネジメント研修
29(水)	施設長会議
31(金)	新型コロナウイルス緊急事態宣言（WHO）
2/1(土)	AIKOHフォーラム2020(成年後見制度の利用促進/総合相談センター研修会)
2/9(日)	職員実践発表会
2/11(火)	建国記念日

□これからの予定

2/15(土)	バリアフリー映画会「こんな夜更けにバナナかよ」
3/14(土)	理事会
3/22(日)	評議員会

■おもな出来事

□理事会報告

1月25日(土)理事9名(1名欠席)監事2名の出席により、第6回(通算294回)理事会が開催されました。内容は、理事長及び業務執行理事の業務報告及び議案として2020年度理事会議決契約事項についてでした。契約関係では、新たな電力供給事業者を採用すること、視覚障害者総合支援センターちばのエレベーターリニューアル工事等が承認されました。また次年度の各施設、事業所の事業計画の原案を本部事務局長より報告しました。その中で法人の第IV期(2021年～2024年)中期経営計画は2020年度中にまとめ作成したい旨の説明を行っています。

□AIKOHフォーラム2020～地域向け研修会

法人では、毎年この時期に地域の皆さんに生活に直結する福祉や介護等の話題をテーマにした研修会を開催しています。(総合相談センター企画/愛光後援会「愛の灯台基金」後援)

本年は、2月1日(土)「高齢の方や障害のある方が安心して地域で暮らしていくための知識」をテーマに、昨年引き続き弁護士の吉野智氏(東葉法律事務所、当法人理事)に、講師をお願いしました(南部地域福祉センター)。成年後見制度の利用促進として、成年後見制度のメリットや課題、今後の成年後見制度の在り方等具体例の紹介をしながらお話ししていただきました。約60名の地域の方の参加をいただき、終了後には活発な質問がありました。その後で、個別でのご相談にも応じていただきました。今後もこのような企画を開いていきたいと思えます。

□職員実践発表会2020

第9回目を迎えた職員実践発表会を、2月9日(日)はちす苑千田ホールにて開催しました。日頃の業務の中での利用者サービスにおける工夫や業務改善など発表会形式で行っています。自分たちの支援や業務を見直す機会にもなり、また法人全体で共有することでよりよいサービスの向上につながればと思います。当日は、各事業所の職員のほか、理事、監事、評議員、地域の住民の方の参加もありました。

今回は、12月3日から7日にかけて訪問した韓国「ラファエルの家」の研修報告もありました。審査委員は、松山毅順天堂大学専任准教授(審査委員長・法人理事)、西原弘明理事長、河野尋幸副理事長、川崎弘千葉県視覚障害者福祉協会理事でした。発表および表彰は次の通り。

○「日韓福祉交流研修報告」

(めいわ：李連淑・杉山夏美 リホープ：橋本昇一 ルミエール：青山秀人・呉昌祐)

○実践発表

① 『食事ってイイね～食事と健康、生活の変化～』(ルミエール：関谷麻人・河野祥)

② 【最優秀賞】『ただいま～私たちが会いにいきます～』

(めいわ：菅原亜依・戸村加奈子・秋山紗登美・大川巧)

③ 『支援の限界を見直すこと』(ルミエール：安藤龍太)

④ 【優秀賞】『地域共生社会の実現～地域食堂「ともいき」の取り組み～』

(地域共生プロジェクトともいき分科会：小平和俊・平野美幸・尾形哲)

■月報から

□利用者・家族に寄り添う支援とは～職員研修会（リホープ）

1月21日(火)高梨憲司元常務理事を講師に迎えて、「利用者に信頼される職員であるために」を副題とする研修会がリホープ主催で行われました。障害についての理解、障害者差別解消法についての理解、リホープ設立の理念や試みなど熱い口調で語られました。また施設職員として、利用者の生活をどう考え、支援していくか。「その人らしく、当たり前生きる」ことを実践するためには、人としての尊厳、命の重さと生きることの大切さを問い直すことが必要。利用者のために行うことは時に押し付けになるが、利用者の目線で支援を行うことが大切であると自らの体験を交えての話に、参加した職員からはわかりやすく考えさせられる内容だったとの感想が寄せられました。

□お正月（ルミエール）

1日、毎年恒例となっているボランティアによる獅子舞がルミエールの各ホームを練り歩き、今年1年の厄払いを行った。利用者は太鼓の音に反応して踊る人がいたり、獅子舞の接近に少々驚きを見せながらも笑顔で新年を迎えることができた。（ルミエール課長大里英美）

□成人の日おめでとう（リホープ）

1月13日成人式を迎える利用者Kさんのお祝い会を開催した。平均年齢60歳のリホープでは最年少。施設長や利用者からのお祝いの言葉が送られ、記念品が手渡された。Kさんからの「リホープは楽しいです。これからも頑張っていきます」という決意表明の後、皆で“翼をください”を歌い、記念撮影を行った。ささやかな会ではあったが、何日も前から緊張して挨拶の練習をしていたKさん。記念撮影の際には、ほっとした表情を浮かべていた。

（リホープ課長 稲垣直子）

□穏やかであれ2020、すこやかであれ 子どもたち（各学童のようす）

「穏やかな天候の中、新年の幕をあけた2020年。今年は天災のない1年でありますようにと空を見上げた元旦の朝でした。そして学童保育所にも賑やかな声が戻ってきました。「初詣に行ったよ」「いとこと遊んだよ」「お年玉もらったよ」などと、お正月の楽しいお話がそこかしこから聞こえてきます。新年度まで3ヶ月足らず。楽しい思い出がたくさんできるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います」〈和田学童1月通信から〉

こんな様子で始まった新年の学童は、百人一首・すごろく・福笑い・かるた・凧あげ・独楽・羽根つきなど伝承遊び、正月遊びといわれるものを多く取り入れ活動した。

1年生男子でけん玉が大流行。毎日、迎えにきた父母を捕まえては腕前を披露するも、本番には弱いようであえなく失敗。父母らは帰宅を急ぐ中付き合ってくれ、前日できなかった技ができると皆、我が子のように喜びほめてくれる。信頼できる大人、自分を見ていてくれる大人が沢山いる地域で育つ子は、地域を大切にすると大人になると思う。

〈山王学童の報告から〉

冬休みが終わり「福袋を買った！」と、話してくれた子がいた。「いいなあ、今年は福袋を買わなかったよ」と返した。しばらくすると、小さな折り紙をプレゼントしてくれた。折り紙は袋状に折られており、中には何やら入っている様子…。「福袋あげる！！」と、福袋を買

わなかった職員に折り紙で福袋を作ってくれた。袋の中には、かわいい柄の付いた折り紙が数枚入っていた。子どもの優しい気持ちが詰まった福袋を手に、2020年が良い年になること間違いないと確信した出来事であった。 <根郷学童の報告から>

6年生の話題は「もう、中学の制服の採寸に行った?」「いつ制服届くかな?」卒業式は中学の制服を着て列席するとのことで、晴れ姿が楽しみのような、寂しいような初春である。

<和田学童の報告から> (学童保育所主任 齋藤理江)

□事業所間連携とは(佐倉市よもぎの園)

先日大量の作業依頼があり受けることにした。新型コロナウイルスの影響により作業量減少による収入源が見込まれる中、数量を吟味しながら受けたが、想定した作業進捗には至らず、ワークショップかぶらぎに作業協力を求めた。快く協力を得ることができ、かぶらぎの職員、利用者がよもぎの園に出向き、作業をすることを提案してくれた。これまで行ったことがない形だが、連携の種類が多ければその時の状況に合わせた対応ができるだろう。今後ワークショップかぶらぎとよもぎの園の強みを引き出しながら、連携が出来ればさまざまな仕事への対応がとれるのではと感じた。 (佐倉市よもぎの園主任 近藤真一)

□おたがいさまのまちづくり～ボランティアデビュー応援講座(総合相談センター)

1月28日(火)ボランティアデビュー応援講座が開催された。この事業は、佐倉市社会福祉協議会と各地域包括の生活支援コーディネーターが共同で企画し、市内の地区社協からも実行委員を募り、準備を進めてきた。県からの補助金も受けており、「地域の担い手発掘事業」である。この日は連続講座の初日であり、四街道出身の桂文雀師匠に地域の支えあいをテーマにした落語を演じていただいた。また、より地域活動に興味を持っていただけるように実践者のトークセッションも行った。当日の参加者は約300名。その中で2回目の実践者との交流会、3回目のボランティア体験会、4回目の体験報告会の希望者を募った。4回すべての参加者は少ないが、これをきっかけに少しでも多くの方が地域活動を知り、担い手として繋がっていただけるよう働きかけをしていきたい。 (総合相談センター所長 森由美子)

□おには～そと! ママは笑顔、子どもは涙? (南部児童センター)

今年は2月3日(月)が節分、この日はセンターが休館日のため、一足早く1月31日(金)節分の行事を実施した。昨年から、鬼がパワー&バージョンアップ!赤の全身タイツに、空気入り金棒、しましまのトラパンツ。あまりにリアルな鬼の登場に、泣き出す子どもたち。新聞紙で作ったボールをママが鬼に投げる。台本通り鬼は謝り、一緒にダンスタイム。その後は、鬼にだっこしてもらって写真撮影。泣いて嫌がる子どもを見て、ママはしっかり楽しんでた。この日の行事参加者数は過去最高の99名だった。(南部児童センターインストラクター鈴木信子)

■職員状況(1/31現在)

	人数	前月比
正職員	160	-2
サポート職員	43	1
非常勤職員	150	-3
計	353	-4

○採用3名(正職員・サポート・非常勤職員)

○雇用形態変更1名(非常勤→サポート職員)

○退職3名(非常勤)